

GOKURAKUJI DAYORI
極楽寺だより
2023(令和5)年 11月号



発行所：極楽寺（浄土真宗本願寺派）☎ 759-3803 山口県長門市三隅下野波瀬 3633 ☎ 0837-43-0625

秋の永代経法要の ご案内

十一月八日（水）

昼一時半

夜七時半

十一月九日（木）

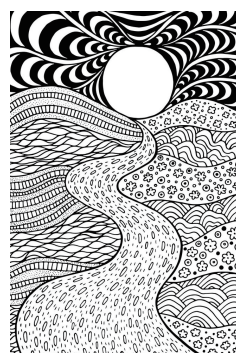
昼一時半

講師 美祢市明巖寺住職

中島昭念師

永代経法要とは

えいたい きょうぼう よう



住職が子どもの頃は、山を走り回って遊んでいました。しかし、今は大人でもなかなか入ることができません。なぜなら、山に入る人がいなくなったことで、道がなくなってしまったからです。先に行く人が踏みしめる歩みによって、道はできるのです。私たちのところにまで、お念仏の教えが伝わってきたのも、先だつてこの道を歩まれたご先祖があるから、志を納めお寺を護ってこられた先輩方があるからなのです。そして次に歩む者がなければ、道は途絶えてしまいます。永代経法要とは、永代にわたり伝えられたこのみ教えを感謝と共にいただき、永代にわたり伝えていこうという尊い営みなのです。

お取越しの季節です

お寺にご連絡下さい。日程を調整した上で、お参りにうかがいます。



お取越しをお勤めしましょう
キャンペーン

落ちて着くから

「お取越し」とは、真宗寺院において最も大切な行事である親鸞聖人のご法事「報恩講」を、ご命日よりも取越し（早めて）各家々で勤めるといふ、真宗門徒にとって大切な伝統行事です。「でも、どうして親戚でもない人の法事を勤めなくてはならないの?」と思われる方もあるかもしれませんが、実はこの行事には、大切な心が込められているのです。

突然ですが、問題です。昨年生まれた男の子の名前に、一番多く使われた漢字は何でしょう。答えは翔」です。鳥が羽を広げ、空を飛ぶ様子を表すこの漢字。空を高く飛ぶように自由に生きて欲しいと願う、親の思いが感じられます。ちなみにここ三十年、必ず上位に入る漢字だとか。大谷翔平、櫻井翔…、有名な人にもよく見かけます。

ここで、第二問です。スキージャンプ競技の選手は、驚くほど高く遠くへ飛び上ります。なぜ、あんなに飛ぶことができるのでしょうか。もちろん飛ぶ技術は必要です。でもそれ以上に重要なのは、落ちた時どうするか、どう転ぶかという技術でしょう。落ち方を知らなければ、飛ぶ練習さえできません。スキーを始める時にまず学ぶのは転び

お取越し、お取越し、お取越し、お取越し、お取越し、お取越し、お取越し、お取越し、お取越し、お取越し

方ですし、柔道も受け身から。落ちたら終わりなら、高く飛ぶことはできないのです。安心して失敗（しっぺい）できるから、安心して飛ぶことができる。ところが、「高く飛んで欲しい」と願う親が多いのにも関わらず、若い人の多くが失敗を恐れているようなのです。

それでは、第三問。若い人が失敗を恐れるのは、なぜでしょう。答えは簡単、大人が失敗することを恐れ、転んでもまた立ち上る姿を見せていないからです。失敗すると叩かれる。イメージが固定化され、いつまでも見下される。SNSやインターネットがそこに拍車をかける。だから弱みを見せられない。失敗を認めることもできない。そ



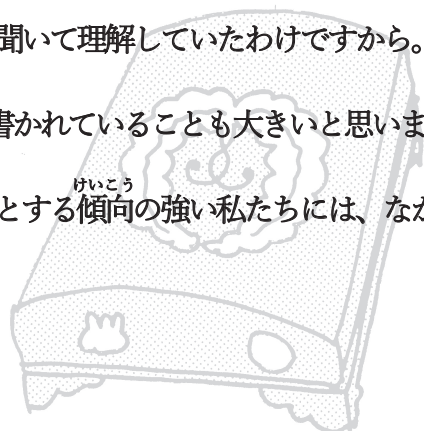
ごぶんしょう 御文章

お寺の
業界用語



③ 身体で聞く

でも、昔の人って凄^{すご}いんですよね。今私たちが『御文章』を聞いても、いや読んでもなかなか理解できません。それを、字を読めない当時の人たちが、聞いて理解していたわけですから。それは『御文章』が、リズムカルで口^{くち}ずさめるような文体^{ぶんたい}で書かれていることも大きいと思います。まるで、人々の身体^{からだ}に沁^しみていくような。頭でわかろうとする傾向^{けいこう}の強い私たちには、なかなか理解できないことかもしれませんが。



④ 歴史を味わう

『御文章』は、その後も長く人々^{みちび}を導^{みちび}いてきました。しかし、現代社会^{くろう}の苦悩^{くろう}に沁^しみ入^いるような言葉かという、難しいところです。「わかりやすい文章」とも言えなくなりました。蓮如上人が今『御文章』を書かれたとしたら、きっと違う表現^{ひょうげん}でしょうし、そもそも同じ形式^{けいしき}を使われるかどうか…。但し、この言葉によって救^{すく}われ、導^{みちび}かれた人たちの歴史^{れきし}があることを、『御文章』を聞きながら味わうことは、とても意味あることだと思います。

尚^{はいどくちゅう}、拜読^{はいどくちゅう}中は、その場で軽く頭を下^さげた姿勢^{しせい}で聞^きいてください。手は膝^{ひざ}に置^おかれても、床^{ゆか}につかれても、どちらでも構^{かま}いません。■

「日頃^{みみなれ}耳慣^{みみなれ}れない、お寺で使^{つか}われる言葉を知^しって、お寺に親^おしん^{しん}で^でいたただ^{ただ}けたら」と考^{かんが}えて始^{はじ}ま^まったコーナ^{コーナ}ーです。

① 御文章は、蓮如上人のお手紙です

浄土真宗では伝統的に、お勤めや法話の後に『御文章』を拜読することが習わしとなっています。『御文章』とは、本願寺第八代門主の蓮如上人のお手紙です。現在でも丁寧な手紙の最後には「敬具」「草々」「かしこ」といった結語が使われます。同様に『御文章』も手紙ですから、「あなかしこ あなかしこ（ああ、恐れ多い。勿体ない）」という結語で終わります。

② 蓮如上人とは、どんな人？

蓮如上人は、今から約六百年前（室町時代）の方です。寂さびとした本願寺を、日本最大の教団へと育てられました。蓮如上人が吉崎（現福井県あわら市）や山科（現京都市山科区）に坊舎を定めると、人々が集い、そこが一大宗教都市となるほどの影響力がありました。戦乱の世、貧しく力のない人々に寄り添い、生きる拠りどころを示された蓮如上人の言葉は、乾いた土に水が染み込むように、人々の心に沁みわたっていったのです。『御文章』は、その教化に大きな力となりました。み教えをわかりやすく伝えるため、手紙という形で全国のご門徒へ送られたのです。印刷技術が今のように発達していない頃。ネットはおろか、新聞や雑誌もありません。そもそも字が読める人が少ない時代に、仏法をわかりやすく書かれた手紙が、多くの人の前で拜読されて教えが広まっていく。当時としては、画期的な取り組みです。その数二百通以上と言われますから、いかに精力的に書かれたかを窺い知れます。身近なものでは「聖人一流の御勸化のおもむきは」で始まる『聖人一流章』、また「朝には紅顔ありて、夕には白骨となれる身なり」の一節で知られる『白骨の御文章』は宗派を超えて有名です。

納骨堂新築計画



このイラストに、深い意味はありません。



スタートしています

極楽寺の納骨堂老朽化のため、約十年後を目標に、納骨堂の新築計画をスタートすることにしました。

◆納骨堂のメリット

納骨堂は、お墓を建てるより、費用を抑えることができます。また、維持管理の面やお参りのし易さも、納骨堂の利点だと言えるでしょう。

◆積立をされる方は、受け付けます

新納骨堂建設に向けて、積み立てを受け付けています。強制ではありませんが、長い目で考え、今の内から積み立てしておくことで、負担は楽になります。金額は、自由です。

◆新規加入者を募集しています

加入者が多いほど、それぞれの負担は軽くなります。また、建ってから「入りたい」と言われても、空きがなければ難しくなります。どうぞ、ご検討ください。

※ 合同墓、小区画など、様々な形を考えています。どうぞ、お気軽にご相談下さい。

月々の言葉

Monthly Words



10月の言葉

草刈りに凝こっています。チップソーとナイロンコード式の二種類の草刈り機を駆使くしして、今年もたくさん草を刈りました。

ところで、草刈りで一番大変な作業は何だと思えますか。私はこのテーマを、様々な人と議論ぎろんしてきました。そして出た結論けつろんが：

「後片付けあとかたづ」です。藪やぶの場合は、刈りっ放しばなにしておけばいいのですが、道沿いみちぞや敷地内しきちないだと、

刈った後、履はいて、集めて、処分しよぶんしなくてはなりません。

これがあるかないかで、肉

体的にも精神的にも疲労度ひろうど



Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

は大きく変わってきました。でも、それを含めて草刈り作業なのです。後片付けをしないのは無責任むせきにんだし、迷惑行為めいわくこういにもなりかねません。

それは草刈りだけに限らずかぎ、何でもそうだと思います。後片付けまで考えて、責任ある発言や行動をしなければ。やりっ放しばな、言いつ放しは、ハッキリ言って迷惑です。では私は、後片付けのことまで考えた言動げんどうをしているのでしょうか。よくよく考えねばなりません。

二〇〇七年にイギリスで、一人の幼児ようじが亡くなりました。原因は、虐待ぎやくたいと育児放棄いくじほうき。親とその恋人は実刑判決を受けましたが、マスコミはその親を保護する立場の、特に母親と赤ちゃんを担当していたソーシャルワーカー（生活相談員）に問題があったと非難ひなんの矛先ぼしざきを向けました。世論よろんもマスコミに乗り叩きたた始めます。

私たちは、「悪いヤツは罰を受けなくてはならない。罰を受ければ、ヤツらは改心かいしんするだろう」と考えがちです。ソーシャルワーカーを叩いた人たちも、そんな正義感からのふるまいなのでしょう。ところが「その後、どうなったのか」を調べてみると…、ソーシャルワーカーの辞職じしょくが急増きゅうぞうし、現場は大混乱。残った人たちは、担当する件数が倍増ばいぞう。当然、子ども一人にかかる時間は減る。叩

かれることを怖れ、問題が起きる前に強引な家庭への介入を始め
る。家族から引き離される子どもの数は飛躍的に増え、裁判所はそ
の保護事案の処理に追われ、その対応に必要な予算は推定一億ポン
ド（約一三〇億円）も発生しました。当然、子どもたちの心身には
大きなダメージが残ります。する
とマスコミは、これまでとは逆に
「愛する子どもを無理やり奪われる
親たち」というストーリーを報道
し始めたというのです。（『失敗の科
学』マシュー・サイド）



ソーシャルワーカーを非難した人は、自分が発言した後片付け
について、どれだけ考えていたのでしょうか。もちろん、悪気があつ
て非難したわけではありません。むしろ、良かれと思ってしたので
す。しかし、その場においては「正しい」と思った言動も、後から
検証してみれば、逆に状況を悪化させるものだったということは、
いくらでもあり得ます。そのことに無自覚だから、自分たちが煽つ
た結果にも関わらず、状況が変われば今度は逆の立場から非難し始

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

める。現場はますます混乱する。何と無責任で、迷惑な話なのでし
う。
このようなケースは、日本でもよく見聞きするところだ。何よ
りネットやSNSの普及で、軽い気持ちで書き込んだ一言が、大き
な影響力を持つ時代になりました。しかしその発言者は、後から「そ
れが効果的だったか」と検証はしませんし、状況を悪化させても「私
の責任だ」と名乗り出ることなどありません。
やはり、後片付けは大切なのです。環境問題や原発の核廃棄物も
そうです。戦争も、どう終わらせるか、戦後処理をどうするのか
難しい。戦後補償の問題だけでなく、感情的な歪みは、七十年以上経つ
ても残り続けるのですから。それは日本に住む私たちが、一番よく
わかるはずだ。

大きなことから身近なものまで、私たちがすることに後片付けは
必ずついてくるのです。しかし、最後まで責任を持てるかという
なかなかそうはいきません。そもそも自分の言動が、その後どんな
影響を及ぼしたのかという検証自体、どこまでの範囲や期間で行う
か…と考えると、キリがありません。つまり、すべての後片付け

に責任を持つことなどできないのです。ならば私たちは、どこかで誰かに迷惑をかけずには、生きていけない。そう考えるべきではないでしょうか。

にも関わらず、「人に迷惑をかけるな」「自己責任だ」という言葉が、叫ばれて久しい時代です。そして、「迷惑をかけてはいけない」と、プレッシャーを感じ、委縮する人が多くなりました。「人に迷惑をかけるような私は、生きていく資格がない」とまで考える人もいます。そんな、気軽に「助けて」が言えない社会になって、早めに助けを求めれば何とかなった問題も、言えないばかりに深刻化してしまふ。そんなケースも多々見られます。

自分がしたことの後片付けもできないのに、「私は人に迷惑をかけていない」「迷惑をかけるようなヤツはダメだ」と言い放ち、無自覚に他人に迷惑をかけ続けている。これは、かなり深い迷いです。ならば、どうすれば良いのでしょうか。「どうせ迷惑をかけるのなら」と開き直り、「自分の好きなこと、やりたいことをやろう!」と、後片付けから目を背けて生きてみますか。それとも、「迷惑をかけずには生きていけないダメな私」と、卑屈に生きていきますか。親鸞聖人は、そのどちらとも違う生き方を示されました。それは人生の責任を引

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

き受けていく道でもありました。

阿弥陀如来は、迷いを迷いと気づかず、更に迷いを深める者をこそ、願い、許し、救おうとする「慈悲のはたらき」の仏様であり、同時に、迷いの深さに「目覚めよ」と呼び続けてくださる「智慧のはたらき」の仏様でもあるのだと、親鸞聖人は教えてくださいました。それは、迷いの深さに気づくことが、同時に阿弥陀様の慈悲の深さに気づくことであり、慈悲の深さに目覚めることが、同時に自らの迷いの深さに目覚めることだと。

迷いの深さを知るほどに、そんな私を、それでも大切に思ってくださいる阿弥陀様の慈悲の深さが知らされる。そのことに目覚める時に、「迷惑をかけている」という卑屈な思いは、「ご恩をいただいたている」という感謝へと変わります。かたじけなさに、深い自省と「せめてこれくらいは」という慎みが生まれてくる。周りの人々を、「共に願われていた」「お互いさま」と、許し合い、認め合う、新たな関係が開かれていく。



そんな豊かな歩みを、親鸞聖人は示してくださったのです。

できないながらも、後片付けを意識しながら生きる。そこに、
与^{あた}えられているご恩^{おん}に報^{むく}いる歩みが開かれていく。それこそが、
自分の人生の責任を引き受けていく生き方なのだと思えられるの
です。 ■



Monthly Words



極楽寺
ホームページ

極楽寺.comで検索
又はQRコードから

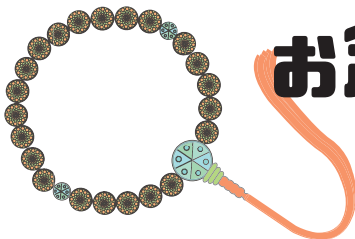


仏事、葬儀、納骨…、わからないことや
困ったことがあれば、極楽寺にご相談ください。
ご遠慮なく、どうぞ 0837 (43) 0625

古い仏具 使わないお線香

お寺へお持ちください

本堂に回収箱を設置してあります。



お念珠の修理いたします

お念珠のヒモは切れるもの。不吉なことではありません。

お寺で修理いたします。お持ちください。



11月の言葉

今シーズンまで、プロ野球中日ドラゴンズのコーチを務めていた荒木雅博さんは、通算二〇四五安打、盗塁王やベストナインにも輝いた名選手。特に評価の高いのが、守備面です。井端弘和選手との二遊間は「アライバコンビ」と称され、一時代を築きました。

そんな荒木さんが、現役時代イップスに悩まされていたことは、知る人ぞ知る事実です。イップスとは精神面や心理的な原因、もしくは何らかの理由で、今まで出来ていた動作が急に出来なくなる障害のこと。セカンドを守っていた荒木さんは、ファーストへの送球の仕方がわからなくなったのです。

当時、ファーストを守っていたのは、タイロン・ウッズ。ホームラン王



荒木雅博

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

に何度も輝いた、強打の外国人選手です。ウッズ選手は守備が苦手で、ボールを捕れる範囲がとても狭く、少しでも逸れれば捕つてくれません。その上、若手でレギュラー選手になったばかりの荒木さんには、プロとしてのプレッシャーが押し掛かります。ミスですれば先輩投手の成績につながり、生活にも影響を及ぼす。「色んなことを考え過ぎていた」と振り返る荒木さん。実はもう一つ問題を抱えていました。右肩を痛めていたのです。肩をかばいながら、一定のところに投げなければならぬ。長い距離を、強く投げるのは何とかなった。問題は、近い距離。何の変哲もない、正面のセカンドゴロが一番苦しい。感覚が狂い始め、「あれ、どうやって投げていたっけ？」と、気づけばイップスの泥沼に浸かっていました。

幸い、深刻な症状までは行かなかったので、誤魔化しながらプレーを続けます。コーチからの、「なんでこんな簡単なこともできないんだ？」という視線に、自尊心を傷つけられました。ウッズ選手に、「それくらい捕ってくれよ」とも思いました。ケガのせいにもしました。しかしある時、このままでは先がないことに気づきます。「人のせいにしての間は、ゴールは見えてこないのです。『あれくらい捕れよな』じゃなくて、『捕れるところに投げよう』と持っていかないと」。

ファーストが捕れないなら、捕れるところへ投げよう。肩が痛いなら、痛くない投げ方を探そう。一つ一つ、言い訳を排除していきました。言い訳をしていたら、試合に出られない。

そうして、「基本に戻るしかない」という結論に達しました。野球を始めた頃まで遡り、一から丁寧に、根気よく反復し続けます。

考えると動きが止まってしまふ。考えずにプレーできるよう、身体が覚え込むまで繰り返す。言葉

では簡単ですが、実行するとな

ると、途方もなく過酷な作業で

す。

「一回イップスになってし

まったら、たぶん野球をやめ

るまで直らないです」と荒木さんは語ります。そしてイップスと

付き合いながら、球史に残る成績と記憶に残るプレーを積み重ね、

二十三年間の選手生活を送られたのです。

(『Web スポルティーバ』イップスの深層第27〜30回菊地高弘)

私たちは、何かトラブルがあると、「誰のせいだ(who=誰)」「ど

うして、こうなった(why=なぜ)」「責任者はどこだ(where=



Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

どこ)」と考えます。冷静に分析し、解決する道を探るためであれば、とても重要なことです。しかし、自分を差し置き、責任を押しつける人を探すことで終わってはいないでしょうか。まさに、他人のせいにするには天才的な能力を発揮してしまふ。いや人間は、どうしてもそちらの方向に流されてしまふのでしよう。

でも荒木さんは、「人のせいにしてている間は、ゴールはない」と語ります。そして考えたのは、「who」「why」「where」ではなく、「どうすべきか(How)どのように)」でした。現実を受け容れ、向き合わなくては、何も始めることはできないのだと。

『大無量寿経』というお経に、「身自当之 無有代者(身、自らこれを当くるに、代わる者有ることなし)」という言葉があります。「自分の人生は、誰にも代わってもらうことはできない」という意味です。思い通りにならなくても、不条理な状況におかれたとしても、誰にも代わってはもらえない。これは厳しい言葉です。しかし、これが人間の事実なのです。

但しそれは、「いじめられても、差別されても我慢しろ」ということではありません。いじめや差別は、尊さを奪うものであり、恥ずかしく悲しい行為です。けれど、もっと悲しいことは、過去に

捉われ、過去に縛られ、自分の人生を、その尊さを見失うことではないですか。

誰かのせいにしても、自分の人生は誰にも代わってもらえない。ならば、これから「どうすべきか (how)」を考えていくしかない。もちろんそれを認め、受け容れることは、簡単なことではありません。大きな勇気が必要です。だけでも、私の人生はそこにしかないのです。

荒木さんは苦しんでいた当時、コーチから「気持ちの問題だから」と声をかけられていました。コーチは、励ましのつもりだったのでしょうが、「気持ちの問題で済ませたら、コーチはいらなくないか？」という思いになったそうです。

一方、「アライバコンビ」のパートナーだった、シヨートの井端選手は、苦言めいたことは一切なく、「こうやったらいいと思うよ」とアドバイスをくれたそうです。「ああ、考えてくれてるんだなあ」と、とても嬉しかった。イップスは、すごく孤独感を覚えるもの。そんなときに周りから「こうやってみたら」と言ってもらえると、一人じゃないと思える。仮に上手くいかなくても、「じゃあまた別

Monthly Words - Monthly Words - Monthly Words - Monthly Words - Monthly Words - Monthly Words - Monthly Words

の方法を試してみよう」とも思える。やっぱり声をかけてもらえるのは、すごく有り難い。荒木さんは、そう感じたそうです。

自分の人生は、誰にも代わってもらえません。しかし、寄り添い、共に考えてくれる人がいること

は、確かな力になるのです。だから今度は、自分がコーチとして「向こうが『もういいです』と言うまで、とことんつき合おうと思っています」と言われるのです。

実はその思いも、苦しい時の支えになっていました。「自分は今イップスで悩んでいるけれど、普通に投げられる程度になれば、同じように悩む子に声をかけられる」と考えることが、現実と向き合う力になったのです。つまり、同じ苦しみを抱える人を想うことも、歩む力になるのです。

やはり、私たちは一人で生きていくことはできないのでしょう。代わってもらえない人生ではあっても、周りの人々との、そして先を行く人、後を歩む人たちの出会いが、人生と向き合う勇気



を与えてくださるのです。

阿弥陀如来あみだによらいという仏様は、いつもこの私に寄り添い、共に歩んでくださる仏様だと教えられます。とはいっても今の時代、なかなかリアリティーがある話として、伝わらなくなりました。しかし、阿弥陀様と共に、苦難くなんの人生を歩まれた方々の歴史れきしは、確かに存在します。その歴史を受けとめて、先人の後ろ姿みちびに導かれ、阿弥陀様と共に苦難の人生を生き抜かれた方々がおられるのです。そしてその歩みは、「このみ教えを、次の世代に伝えなくてはならない」という思いが力となり、支えになっていたとも言えるでしょう。

先人せんじんの存在が私の生きる力となり、私の存在がまた先人の生きる力を生み出していく。そんな関係が、阿弥陀如来という存在を通して開かれるというのは、とても素敵すてきなことだと思いませんか。その歴史が、私たちのところに届けられている。これを受けとめないのは、あまりにも勿体もったいないことだと思のです。

「身自当しんじとうし之 無有代者むうたいしや」自分の人生は、誰にも代わってはもらえない。この『大無量寿経』の言葉は、ややもすると、私たちを孤独こどくへ突き落とすような厳きびしい響ひびきを持っています。しかし、この事

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

極楽寺だよりを 送riませんか

都会に出ておられる子どもさん、お孫さんたちへ。
有縁の方々へ。
お寺へお申し出下さい。
直接郵送します。
送り先が増えると、
住職はうれしいのです。



井端さんの、侍ジャパン監督
就任が決まりました！

実に向き合うことで初めて、力となってくださる人々との出会いが開かれる。支えてくださる世界が明らかになる。誰にも代わってられないものとして人生を受け止めるからこそ、自分は孤独こどくではないのだと知らされていくのです。 ■


Monthly Words



子どもたちのために、極楽寺の卓球室を開放しておりましたが、残念ながら近頃はまったく使用されていません。

そこで、大人の軽い運動と、いこいの場としてお使いいただけたらと思い立ちました。行事のない時でしたら、いつでもお使いください。

お寺の者に、一声かけてもらえると助かります。



極楽寺の卓球室を、 運動といこいの場として、 ご利用ください。



今年のカーブは下馬評を覆し、2位でペナントレースを終えました。何と言っても、新井監督が凄い！選手たちを生き生きとプレーさせてくれました。終盤は、主力選手が相次いで故障、離脱する中でも、堪えしのぎました。この文章を書いている時点では、まだCSの結果はわかりませんが、もうどちらでもいい！私は今年の戦いぶりに満足しています。本当によく頑張りました。来年も、今年のようなプレーが見たいものです。■

物でお布施

mono de ofuse



プルトップも
集めています！

書き損じはがき・未使用切手・商品券
未使用テレホンカード・ビール券など金券
CD・DVD・ゲームソフト・ゲーム機器など

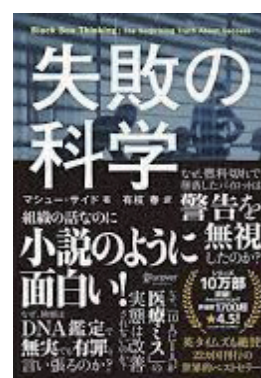
換金し、海外の難民支援や国内災害の被災者
支援に使わせていただきます。

本堂の回収箱へ



□ また、やってしまいました…。三隅地区へ配布した「三隅親鸞聖人鑽仰会法会」のチラシ、日程を間違えて配布してしまいました。慌てて、訂正したものを再配布し、事なきを得ましたが、皆様にも、重ねて手を煩わせた世話人の方々にも、ご迷惑をおかけしました。□ 配布後すぐに、多くの方から「間違ってるよ」とご指摘をいただきました。指摘されるって、有り難いことですね。間違えたままの方がダメージは大きいし、早く気づけば早く対応することもできますから。□ 先日、小中学校の先生方と話す機会があり、「近頃は失敗を恐れて

いる子が、本当に多い」と伺いました。でも、失敗を恐れていたら何もできませんし、人からの指摘やアドバイスも聞けなくなってしまう。失敗することで、改善点が見つかり、軌道修正できる。学びが生まれ、経験につながり、対応能力も上がる。それは、失敗を繰り返してきた私が、自信をもって語れるところです。□ 『失敗の科学』（マシュー・サイド著）という本で、こんな話が紹介されています。ある陶芸クラスで、実験が行われました。どれだけたくさん作れるかという「量」で成績を評価するグループと、どれだけ良い作品が作れるかという「質」で評価するグループに分けたのです。その結果、全作品中一番「質」の高い作品を出したのは…、「量」のグループでした。つまり「量」のグループは、数多く作ることで、試行錯誤を重ね、粘土の扱いも上手くなった。それに対して「質」のグループは、最初から完璧なものを作ろうと、構想に時間をかけすぎて、残ったのは壮大な理論と粘土の塊だけでした。頭でいくら考えても、身体を使って経験した、失敗からの学びにはかなわない。「素晴らしいミュージシャンになるために、まずひどい曲をたくさん演奏しよう！」「強いテニスプレーヤーになるために、まずたくさん試合に負けよう！」こんなポリシーを薦める心理学者もいるのだとか。失敗を恐れる子どもたちに、このメッセージを伝えるためにも、私たち大人が失敗と向き合い、学ぶ姿勢を見せなくてはと思っています。□ いや、言い訳を書き連ねているわけではないのです。失敗の後のふるまいこそが、重要だと思っているのです。生きている限り、失敗はつきもの。ならば、失敗から何を学び、どうふるまうかを考えるべきでしょう。指摘を受けられ、感謝できるオープンな態度は、自分の愚かさに向き合うことで育てられます。これこそ、今の子どもたちに最も必要なものであり、今の大人たちが見失ったものではないでしょうか。私はこれを、親鸞聖人の「愚者」の歩みから教えられています。■



↑ おススメです！

次回法座の予定

仏婦報恩講 12月18日(月)

除夜の鐘つき 12月31日(日) 元旦会 1月1日(月)

御正忌報恩講 1月14日(日)～16日(火)

※ ようやく、例年通りに御正忌を勤めることができそうです。